

影響を把握し、それぞれの本業や本業の強みやノウハウを通じて REDD+ に参画することが可能だと思う。制度を作る側には、REDD+ に参画するための広い受け皿となり得る枠組みを構築されることを期待したい。

最後に、本稿は環境省や経済産業省による事業、アスクル、ヤンマー社と行なう JICA と連携した REDD+ 実証活動、生物多様性イニシアティブ (JBIB) での活動、住友林業での各種業務等を通じて得た情報や知見を基に記述したものである。これまでご支援、ご協力していただいたすべての関係者

の皆様に広く、そして深く感謝いたします。

〔参考文献〕 1) 2013 年 JCM 実現可能性調査報告書「森林管理支援と生計向上による REDD+ と小規模バイオマス発電」、住友林業株式会社 2) 2012 年 JCM/BOCM 実現可能性調査報告書「森林管理活動を通じた REDD+ と木材産業残材に基づくバイオマス発電」、住友林業株式会社 3) 2011 年新メカニズム実現可能性調査報告書「ベトナム・ソララ省における荒廃地の植生回復・植林等による REDD+ と木質バイオマス発電に関する新メカニズム実現可能性調査」、住友林業株式会社

図書紹介

—シロアリの名著二冊—

シロアリは一般には住宅を加害する害虫として知られているが、自然界においてはセルロースの分解に携わる重要な働きを持つ昆虫である。熱帯の植林地ではときに多大な被害を及ぼすものの、アリ塚は乾燥地の樹木に良好な生育環境を提供している（本誌「荒廃地に木を植える」参照）。このようにシロアリは地球環境や人間社会と深く関わる奥の深い昆虫であるが、その全貌を分かりやすく伝える入門書と事典の名著を紹介する。

住まいとシロアリ（海青社 2000 年刊）

今村祐嗣、角田邦夫、吉村 剛編

174 ページ 定価：1,598 円（税込み）

ISBN978-4-906165-84-1 (4-906165-84-2)/C1040

シロアリの事典（海青社 2012 年刊）

吉村 剛・板倉修司・岩田隆太郎・大村和香子・杉尾幸司・竹松葉子・徳田 岳・松浦健二・三浦 徹編

471 ページ 定価：4,536 円（税込み）

ISBN978-4-86099-260-6 (4-86099-260-1)/C3045

「住まいとシロアリ」は、第一章「住まいのシロアリ被害」、第二章「シロアリ社会を探る」、第三章「地球環境とシロアリ」、第四章「二十一世紀のシロアリ防除」、および 10 個の一口メモで構成され、第一線の研究者が幅広い読者を対象にシロアリという生物をわかりやすく解説している。まず、社会的に関心が高いシロアリ被害を写真入りで解説、防除策や研究を述べ、世界各国のシロアリとその生態を紹介、シロアリが地球環境に多大な貢献をしていることを解説した名著である。

「シロアリの事典」は、“日本のシロアリ研究者による最新の研究成果を研究者自身で社会に発信する”というコンセプトで執筆された集大成で、次の 9 章から構成される。1 章「シロアリと環境」、2 章「シロアリと他の生物との関係」、3 章「最新シロアリ生理学」、4 章「カースト分化の生理機構」、5 章「シロアリコロニーの遺伝構造と繁殖システム」、6 章「シロアリの行動戦略」、7 章「シロアリと防除対策」、8 章「シロアリを利用する」、9 章「シロアリと教育」。さらに総計 46 頁に及ぶ文献リストは、わが国のシロアリ研究の総説として、海外の研究者にも紹介し得るものになっている。

（川元スミレ）